

【司会】

皆さん、長らくお待たせいたしました。ただいまから、令和6年度奈良県まちかどトークを開会いたします。本日はご多忙の中、多数ご参加いただき誠にありがとうございます。

それでは、開会に先立ちまして、山下奈良県知事よりご挨拶申し上げます。

【山下知事】

本日、奈良県まちかどトークを初めて開催させていただきましたところ、多くの市町村の関係者の皆さん、そして住民の皆さんにご参加いただきまして、誠にありがとうございます。本日、この西和地域を中心とする地域で開催をさせていただきましたのは、やはり西和医療センターの移転建替ということを予定しておりまして、それについて、住民の皆さんへの説明や意見聴取といったことを目的の1つとしております。それ以外にも、道路の整備や駅前のロータリーの整備、あるいは、インターチェンジの整備といった、そうしたこの地域の道路整備についても大きな事業が予定されておりますので、そうしたことにつきましても、住民の皆さんに説明するとともに、ご意見、ご要望等を承りたいという趣旨で開催をさせていただきました。

県と県内の39の市町村は、年2回、「奈良県・市町村長サミット」というのを開催させていただいております。そこは一般の住民の皆さんのご参加はないんですけれども、そこで取り扱っているテーマは、県全体に関わるテーマとなっております。しかし、こういう地域特有のテーマにつきましても、なかなかそうしたところを県全体の市町村長サミットで取り上げにくいことから、こういう地域に対象を限った集まりを持って欲しいというような、ご意見、ご要望がございましたので、今回初めて企画をさせていただきました。どうかその開催の趣旨をご理解いただきまして、本日の会が実り多いものとなりますように、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。以上です。

【司会】

ありがとうございます。

また、本日は、奈良県議会議員、市町村議会議員をはじめ、関係者の皆様にも多数お越しいただいております。ありがとうございます。

なお、本日の様子はYouTube奈良県公式総合チャンネルでライブ配信しております。

それでは、本日の登壇者を紹介いたします。改めて冒頭でご挨拶申し上げました、山下奈良県知事です。続きまして、上田大和郡山市長です。小紫生駒市長です。三橋香芝市長です。西脇平群町長です。木谷三郷町長です。中西斑鳩町長です。富井安堵町副町長です。町長がインフルエンザで急遽欠席になりましたので、代理で出席いただいております。今中上牧町長です。平井王寺町長です。山村広陵町長です。森川河合町長です。上田県立病院機構理事長です。どうぞよろしくお願いいたします。

コーディネーターは、奈良テレビ放送の小池報道デスクをお願いしております。それではここからの進行は、コーディネーターの小池さんをお願いします。

【小池コーディネーター】

改めてご挨拶いたします。本日コーディネーターを務めます奈良テレビの小池と申します。奈良テレビで報道記者やデスクなどを務めておりまして、ちょっと宣伝ですが、平日夕方の「ゆうドキッ！」とか、金曜夜の「ならフライデー9」などでニュースの解説などを担当しております。県や市町村の皆様には、そういったニュースの取材や選挙報道でいつも多大なお世話になっておりますので、この場を借りまして本当皆様には厚く御礼を申し上げます。ありがとうございます。

そして、今日会場を提供いただきました安堵町ですけれども、こちらも昔からお世話になっておりまして、人間国宝第1号の富本憲吉さんとか、ユウガオの実を利用したかんぴょう作りなどを取材させていただいたことが、非常に印象に残っております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

これからちょっと座らせていただいて、司会をさせていただきます。さて、今日のまちかどトークの流れを紹介いたします。いずれも奈良県民、とりわけここにお集まりいただいております西和地域の皆様には、暮らしに直結する大切な課題です。

まず、テーマ1つ目といたしまして、知事にもご紹介いただきました、「西和地域における医療提供体制の充実」。つまり、新たに建設予定の西和医療センターについて、知事及び病院機構の理事長から、事業説明を受けた後、登壇者による意見交換を行う段取りになっております。

そして次に、テーマの2つ目ですが、「駅周辺のまちづくり及び利用環境の整備」ということになっております。そしてテーマ3「道路整備の加速化」について、まとめて山下知事から事業の説明を受けた後、またこれも登壇者による意見交換を行いたいと思います。

そして最後に、事前に会場に来ておられる皆様にいただいたご質問に登壇者からお答えいただく段取りと、そういう形になっておりますので、皆様よろしくお願い申し上げます。

それではまず、テーマ 1「西和地域の医療提供体制の充実」から始めていきます。山下知事、舞台にお上がりいただいて、資料の説明をよろしくお願いいたします。

【山下知事】

それでは正面の画像の方を見ていただきたいと思います。西和地域における医療提供体制でございますけれども、現在JR王寺駅の近くにございます、西和医療センターが非常に建物が老朽化しております。また敷地が非常に狭隘化しております。そうしたことから、従前からこの西和医療センターの移転建替ということが議論されてきたわけでございますけれども、昨年度、JR法隆寺駅南側に移転建替をするということを決めさせていただきました。

私、知事に就任するに当たりまして、県民の皆様には3つの約束をさせていただいたところでございます。その3つの約束とは何かということですが、右側の方に3つの責任というふうに書いてございますけれども、「奈良県民や事業者の安心と暮らしへの責任」、それから、「奈良県の子どもや若者の未来への責任」、そして3つ目といたしまして、「豊かで活力ある奈良県を作る責任」、この3つの責任を果たして参りますということを述べさせていただいております。

今回のこの西和医療センターの移転建替は、この一番最初の「奈良県民や事業者の安心と暮らしへの責任」というものを果たす上で、非常に重要な取り組みであるというふうに考えております。

西和医療センターは、奈良県が直接運営している医療機関ではございませんので、奈良県立病院機構という地方独立行政法人が運営主体となっております。この奈良県立病院機構というのは、奈良市内にある奈良県総合医療センター、そして西和医療センター、そして田原本にございます、奈良県総合リハビリテーションセンター、その3つの医療施設を運営している、そういう地方独立行政法人でございます。従いまして、奈良県総合医療センターと西和医療センターの連携を最大限に強化いたしまして、両センターの連携により、相互の強みを生かし、限りある医療人材等の資源を有効に活用するなどして、スケールメリットを活かしていきたいというふうに考えております。

奈良県における救急患者への対応体制でございますが、まずこういうふうに、1次、2次、3次、さらに0.5次っていうのを付け加える場合もございますけども、こういう4層構造になっております。まず、急に自分や家族の容態が急変した、あるいは、けがをしたというような場合は、まずは、電話での相談、救急安心センター電話相談、子供救急電話相談、そうしたところに、まずお電話していただきまして、救急車を呼ぶべきなのかどうか、あるいは、救急車を呼ばなくて家に対応することで足りるのか。救急車を呼ぶほどではないにしても、自分で病院に行く場合に、どういったところの、どういった病院に行けばいいのかといったことを、まず電話で相談していただくと。すぐに救急車を呼んで入院する、病院に行くといったことが必要でない場合は、土日明けや平日にかかりつけ医に行っていたらいいんですけども、土日の間にすぐ対応しなきゃいけない、夜間の間にすぐ対応しなきゃいけないという場合には、まず、市町村等が運営している休日夜間診療所に行ってください、これが1次救急でございます。そういう休日夜間診療所で対応できない場合は、西和医療センターや、奈良県の南部で言いますと南奈良総合医療センター、こうした2次救急医療機関で救急の受け付けをしていただくと。そうした西和医療センター等でも対応できない重篤な症状につきましては、県立医大附属病院や奈良県総合医療センターで対応するという、こういう4層構造になっております。このうち西和医療センターは、この2次救急を担う、そういう病院でございます。ですので、スライドの一番上に書いてございますように、西和医療センターは、地域の入院や手術を必要としている重症患者に対する中心的な病院として、その役割を果たして参ります。

西和医療センターに来院する患者の状況でございますが、円グラフをご覧ください。まず、4割が生駒郡から、また4割が北葛城郡からお越しいただいております。1割が香芝市から、残り1割がその他というふうになっております。主に西和地域の皆様の、入院や手術を必要とする重症患者に対する医療というのを担っております。

さらに具体的に言いますと、入院手術が必要な患者とは、脳卒中であったり循環器病であったりがんといった病気でございます。それから、救急につきましては先ほどご説明させていただいたとおり、入院や手術を必要とする、そういう2次救急に対応しております。

この西和地域におけます今後の必要な医療の見込みでございますが、この棒グラフは今後の人口の推移をお示しております。濃い下から説明しますと、濃い青が75歳以上、オレンジが65歳から74歳、グレーが45歳から64歳、それから黄色が15歳から44歳。それから水色が15歳未満となっておりますけれども、2020年から2050年にかけて、このようにどんどん、どんどん、西和地域での人口は減っていきますが、この75歳以上、そして65歳から74歳、この年齢層の方はずっと横ばいというふうに見込まれております。したがって、西和地域全体では人口は減るものの、病院にかかることが多い65歳以上の人口はそう変わらないということから、今後とも西和地域における医療ニーズは引き続き高いというふうに見込んでおります。

西和医療センターの整備の基本的な考え方でございますけれども、将来にわたって県民が安心して暮らせる揺るぎない医療を提供するというので、先ほど説明した2次救急医療、そして脳卒中、循環器、がん等の入院手術が必要な患者さんへの対応、そしてさらに、地震時の災害対応や、新型コロナウイルス等の感染症への対応と、主にこの3種類の医療を提供することを、西和医療センターの役割と位置付けております。西和医療センターで対応できない特殊な診断や治療を必要とする医療につきましては、奈良県総合医療センターの方で見ていただく。そして日常的な健康管理や、比較的軽症な医療につきましては、地元のかかりつけ医などに担当していただくという、そういう、かかりつけ医、西和医療センター、そして、奈良県総合医療センター。ちょうどこの真ん中に位置しているのが西和医療センターでございます。

建替整備の方針でございますけれども、先ほど言いましたように、今後とも、当地域の医療ニーズは変わらないという見込みでございますので、病床数につきましては現在の病院と同程度を整備する方向でございます。同程度というのは300床でございます。延べ床面積につきましては、現在の病院よりも広く確保する方向でございます。

整備の方向性でございますけれども、先ほど冒頭紹介しました奈良県立病院機構という地方独立行政法人は、令和5年度の決算が43億円の赤字となっておりまして、非常に厳しい経営状況でございます。そうしたことから、地域に将来必要となる医療需要を見越し、必要十分な機能、規模の病院として、あまり過大な投資は避けるべきであるというふうに考えております。その一方で地域に必要な医療のニーズを満たすために、特色ある病院を目指していきたいと考えておりまして、一例として個室の割合をふやすことで、感染症対策や患者のプライバシーの確保に役立つような、そういう特色を持たせてはどうかと考えております。

私からの説明は以上でございます。

【小池コーディネーター】

山下知事ありがとうございます。席にお戻りください。続いて、県立病院機構の上田理事長、お願いできますでしょうか。壇上で資料の説明をお願い申し上げます。

【上田県立病院機構理事長】

それでは、説明させていただきます。ご覧のように、法隆寺駅南側、それから大和高田斑鳩線の東側に、丸で囲んである場所ですけれども、法隆寺駅の南出口からは、おそらく5分足らずで徒歩で行けるといいますし、いわゆる、救急車、あるいは、自家用車で訪問される方々は、先ほど申し上げた大和高田斑鳩線の道路からの進入というふうになると思います。その際、やはり交差点の十分な整備がないと、右折車がいっぱいになってしまうといったようなことにならないような配慮が必要かと思っています。

さて、電車の駅、法隆寺駅に来るまでも、お住まいのところから、JRのどの駅に行くかというところも大変で、結局はバス等の駅からの通院という、あるいは、入院の場合は自家用車や救急車になるかと思うんですが、そういう意味で、かなり広いロータリーが必要になると考えています。さらに、先ほど山下知事から、人口構造についてお話になりましたけれども、70歳以上80歳以上が増加し、2040年の奈良県の女性の最大の人口は、90代の女性の群が、年齢層別で一番大きな群になると想定されます。そういう方が受診されるわけですから、車椅子であったり、介護タクシー等で来れないといけないので、電車で来るというのは難しくなります。そういう意味において、この場所というのは、広いスペースがあり、また駐車場を確保できるという意味で、非常に医療としては、絶好の地形というふうに考えています。

先ほど、300床程度ということは、知事からお話がありましたが、4階から5階建てで、屋上にはヘリポートを用意し、南和に基地がありますが、医大、総合医療センター、そして西和医療センターが、ヘリを屋上で受入れることができるという、災害拠点病院としての認定を受けたいというふうに考えています。

繰り返しますけれども、医療の内容ですが、やはり専門性が2つの病院によって若干異なります。それを、すべて同じ診療科を持つかということ、知事のご説明にもありましたように、連携することが大事だというふうに思っています。機構が運営する3つの病院がございますが、それをどのように効果的な活動をするか、超高齢化社会における医療提供については、やはり、医師、看護師さん、医療職が連携する形が必要になってくると思います。その意味において、今回提案されたことは、個室を充実する、感染を防ぐ、すでにコロナ禍において西和医療センターは、多くの患者さん、感染者を受け入れてきました。1病棟にトイレのブースが1つだけで、1病棟の入院患者さん全部がそこへ行くと、個室が非常に少なく、大変感染リスクが厳しい中、コロナ禍に打ち勝ったというふうに思いますけれども、今後はそういうことがないように、個室を多く持って、感染者が廊下を歩かないといったような配慮もしていただけるし、お話にあったように、それぞれのプライバシーが確保されるという意味でも医療としてはよくなるというふうに思います。

もう1つは、一般の方々が思ってたっしやるように、病気が完全に治るまで入院というのは、今の医療体制では非常に難しくなっています。言葉では急性期のというように重症で、入院できないと治療できない、また、きめ細かな医療、きめ細かな看護がないと、回復に向かわないといったような、いわゆる重症患者さんを中心としております。従って、ある程度安定したところ

で後方の病院に、あるいは、介護施設等に、転院、あるいは、退院というふうになるかと思っております。

そんな中でもう1つ皆さんに申し上げたいことは、今年から医師の働き方改革というのが始まりました。医師も超過勤務が、制限されるということで、2035年には、現在の超過勤務がさらに厳しくなります。そうすると、医師を確保しないと、交代制の勤務ができない、夜間、あるいは、休日の医療ができなくなる。その意味において2つのセンターが協力するということが非常に大事になってきます。簡単に言いますと、1日8時間、週5日、40時間しか通常診療がないんですよ。1週間は168時間ですから、4分の1以下しか通常時間ないのです。4分の3を占める時間外にいかに医療を提供するかという、これが今申し上げた2040年、あるいは、新西和ができる頃から、厳しい医師、医療者の勤務状況を考えていくと、緊密な連携以外に、医療を維持することはできないというふうに考えております。以上です。

【小池コーディネーター】

ありがとうございました。席にお戻りください。

それでは、ここからは新たな西和医療センターについての説明を受けまして、意見交換に移ります。まずは、新たなセンターの建設予定地である、斑鳩町、中西町長からご意見を伺いたいと思います。中西さんいかがでしょうか。お願いいたします。

【中西斑鳩町長】

斑鳩町の中西でございます。

今、西和医療センターの説明がございました。当町が候補地ということでございます。この中でもやはり当町だけでなく、この周辺7町の、医療体制の充実を図るということで、この建設については大いに期待できるものと思っているところでございます。ただ説明の中でもありましたように、分娩の関係が、この西和医療センターはできないということ、妊婦健診と産後ケアだけが西和医療で、分娩は県総合の方に行くというような形になっております。これについては、やはり女性の方が安心して分娩ができるようなことを考えますと、再度、検討をお願いしたいというふうに思います。前回にも7町で要望等も出していただいているわけでございますけれども、その中でもまだ期待に沿えるような回答はいただけていないということ。ちょっとその辺の再検討をお願いしたいと思います。県内の医療体制の確保ということで、奈良県の保健医療計画は策定をされております。通常の保健医療提供が、過不足なく完結されることを目標に整備するということで、2次保健医療圏で、奈良、東和、西和、中和、南和の、5つの区域に区分されているところでございます。斑鳩町をはじめ7町は、西和の方の区分になっているわけでございますけれども、この西和の区分におきましては、分娩のできる個人病院というのが2件しかございません。その中で、やはりこの西和地域というのは、医療、そういう産科の関係が、非常に脆弱な状況ということになっているところでございます。この西和地域におきましては、やはり妊婦の方が安心して分娩ができる、そのような形をとっていただきたいと思います。知事

の説明の中で、3つの責任の1つということで、安心して医療が受けれる体制が必要と言われておりますので、やはりここにもいろんな多くの女性の方が来ていただいております。このような方たちはやはり、分娩から産後ケアまで一貫して医療が受けれる、そういうようなことを望んでおられると思いますので、再度、考えていただいて、一貫してできるような方法をとっていただきたいというふうに思います。特に今、予算の方でも43億円の赤字が出てるということでございますけども、これがその原因とは思いませんけども、これにつきましても、生駒市長、今日は来ておられますけども、その当時の調整会議の中で言っておられるのが、分娩にしても、社会的問題があるハイリスクの妊婦さんを優先的に市立病院で受けるなど、採算面が幾らかなかなか難しいケースも、やはり率先して受けて対応していくというのが、公立病院の使命だというようなことを言っておられます。やはりそのような考え方を持って、県の方もいろいろ考えていただきたいというふうに思いますので、その見直しの方は、再度検討していただきますよう、よろしくお願いしたいというふうに思います。

次に、道路の関係でございます。これにつきましては、先ほど理事長からもいろいろ話がありました。やはり、県道大和高田斑鳩線、ここには、ルート25、また斑鳩バイパス、西名阪からのアクセスというような形で重なってくるわけでございます。その中で、やはり理事長も、交差点の改良が必要だということも言っていただいております。そして、法隆寺駅までのアクセス、そして、非常に大きなロータリーが必要だというようなことも言っていただいておりますので、やはり、その考えを私たちは尊重したいというふうに思いますので、十分、このロータリーも広くとれるような形で、また、駅から病院までのアクセス等もいろいろ考えていただいて、整備をしていただければというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。以上でございます。

【小池コーディネーター】

どうもありがとうございました。では続いて三郷町の木谷町長に意見をお伺いいたします。木谷さんよろしくお願いいたします。

【木谷三郷町長】

では三郷町からも分娩の取り扱いについてご要望ということでさせていただきたいというふうに思います。妊娠出産をはじめとした母子保健に関しましては、国が提唱しております「健やか親子21」という運動があるんですけども、この中では、安心安全な妊娠、出産、育児のための切れ目のない妊産婦、乳幼児保健対策の充実というのが目標となっております。もちろんこの方針に基づきまして、三郷町でもケアの充実に努めているところでございます。しかしながらですけども、現在、三郷町内には産科医はありませんで、そして近隣町における分娩の選択肢も、近年減り続けているという状況でございます。妊婦の方々が限られた選択肢の中で出産する医療機関を決めることを余儀なくされている現状ということに関しては、これから子育てをしていこうとされる方々に対しても、妊娠出産に関して不安を感じる方もいらっしゃるの

ではないかなというふうに思います。このような状況ですけれども、奈良県の保健医療計画におきましても、必要な保健医療が行き届くこと、そして関連する分野との繋がりを重視して、切れ目なく一連のサービスが受けられるということを目指していらっしゃいますので、その目指す姿を実現していくところには、西和医療圏の中では、西和医療センターの役割というのがすごく大きいのではないかなというふうに思います。妊婦が地域で安心して、出産、子育てをしていただきまして、切れ目のないサービスが支援ができますよう、西和医療センターにおきましては、妊婦健診、産後ケアのみの実施ではなく、妊婦健診から分娩、産後ケアまで切れ目のない支援ができますように、ぜひとも産科の整備をお願いしたいと思います。以上です。

【小池コーディネーター】

木谷町長ありがとうございました。では続きまして、上牧町の今中町長の声を聞きたいと思います。今中さん、よろしくお願いいたします。

【今中上牧町長】

はい。よろしくお願いいたします。今斑鳩と三郷の町長さんの方からお話がありました、私も内容としては同じでございますので、同じ話ばかり繰り返すということではなしに、特に、要望したいのは、やっぱりその検診と分娩。これ、やっぱり一体的であるべきであると。やっぱり妊婦さんの、安全、安心をしっかりと守ると、そういう意味で、再度、新西和医療センターでの分娩の再開を、まず強く要望をするところでございます。

それと、もう1つ、西和医療圏、それと奈良県全体の周産期医療に関わるということでございますので、新西和医療センター整備基本計画の策定につきましては、ぜひ、奈良県周産期医療協議会の意見をしっかりと聞いていただくということが必要だというふうに考えておりますので、この部分をぜひ強く要望をして、私の説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

【小池コーディネーター】

今中町長ありがとうございました。そうですね。お産については、近畿大学の奈良病院も分娩休止したということもありますので関心が高いようです。また病院へのアクセスに関する声も非常に多いようです。

続きまして、平群町長の西脇さんはいかがでしょう。ご意見ぜひお願いいたします。

【西脇平群町長】

平群町長の西脇であります。まず山下知事におかれましては、このような機会を設けていただき本当にありがとうございます。

私からは、西和地域における医療提供体制の充実と、奈良県総合医療センターとの連携強化についてのアクセスについて、意見を述べさせていただきます。西和医療センターの移転に

つきましては、斑鳩町のJR法隆寺駅南側地区に決定されました。令和13年度開院に向けて鋭意取り組まれていることと思います。先ほどからいろいろあるんですけども、西和7町での西和医療センターでの周産期医療体制の一体整備について、7町でも要望を行ってまいりました。特に平群町では、分娩につきましては、近畿大学奈良病院が令和6年3月をもって分娩を休止されました。検診や診察を受けた病院で分娩を行うことが、妊婦さんにとっては、患者の情報を把握しているので、病院で出産することで安心して産むことができます。先ほどの知事の説明では、正常分娩のみを取り扱う機能を新西和医療センターに整備することは考えておられないということです。特に、奈良県総合医療センターとの役割の強化が必要となってくると思います。

奈良県総合医療センターとの連携した医療体制の強化を図るために、特に平群町では、主要幹線道路が南北に通っているだけで、国道168号線しかありません。特に東西に抜けるルートがありません。近年では、各地で大きな災害が起きており、本町の災害時における緊急輸送道路は国道168号線しかなく、震災が起こった場合や、また特に病院への緊急輸送、消火救出、救助などの災害対応を行うために車両が通行する道路が必要となってくることから、緊急輸送道路として、奈良県総合医療センターへのアクセスの強化をお願いしたいということで、また、この道路を活用することで、三郷町も大和川の水害が発生した場合も、緊急輸送道路として活用することができます。この道路により奈良県全体を見ても、奈良県北西部と奈良県北部とのパイプの道路となります。利便性の向上が図られることとなります。以前から、これを郡山土木協議会を通して奈良県に要望を行っておりますが、具体的には、東西へのアクセス道路、平群と郡山間を矢田山に抜けるトンネルを結ぶ道路を仮称東西線と呼んでるんですけども、奈良県の道路計画に位置付けて、整備をしていただくことを要望しておきます。以上です。

【小池コーディネーター】

西脇町長ありがとうございました。

ではテーマ1の意見交換の最後となりますが、河合町長の森川さんをお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【森川河合町長】

どうもありがとうございます。

斑鳩の地に西和医療センターが移るにあたって、周産期の問題、また道路交通網の問題というのがございます。私ども河合町、上牧町、また、広陵町からこの病院に行こうとすれば、まず、道路網の整備が最大の課題だと考えています。というのは、高田斑鳩バイパス、法隆寺インターしか通っていけない。私どもから、他の道路で通ろうとすれば、天理王寺線もまだ開通しておりませんし、高田斑鳩バイパスの慢性的な渋滞が起っております。そこに救急車が通るとなれば、本当にその時間内に到達できるのかどうかという問題もございます。できましたら、周辺道路の整備を重点的に考えていただければと。

また橋も王寺町に1つ、25号線の橋、御幸橋(みゆきばし)、新御幸橋とございます。この3ヶ所の橋しかございません。東西を結ぶ道路も本当に天理王寺線、まだまだ整備が完成しておらないというような現状で、今河合町の西名阪法隆寺インターを中心に、大変渋滞がございます、できましたら、救急車のスムーズな運行ができるように地域の交通網、また、バス路線とか、交通網の整備としては、バスの路線を法隆寺から、河合、上牧、また、五位堂まで走っていけるような、そういうバスの路線も考えていただいて、高齢者の方々が、安心して通えるような病院の立地条件、また整備をともに考えていただきたいと考えておりますので、どうか、県の方でしっかりと道路網の整備、また交通網の整備をよろしくお願いいたします。

【小池コーディネーター】

森川町長ありがとうございました。

では、今出ました5人の方からの意見を踏まえて、病院機構の理事長と山下知事から総括的なお答えをいただきたいと思います。周産期やアクセスについて質問がたくさん出ましたが、まず上田理事長いかがでしょうか。お願いいたします。

【上田県立病院機構理事長】

周産期医療について少し誤解があるかと思っておりますので、現在の状況を申し上げます。現在、総合医療センターと西和医療センターの産婦人科は一体となっています。一体というのは、西和の医師も総合で手術をするし、西和の外来に総合からも医師が行っています。産婦人科の医師、今、正規の方が15名、医長クラスが12名います。その方々が両方の病院で働いているということです。

それから、お産のことですけれども、現在の総合医療センターでのお産は、月約60件、年間700件程度です。コロナのとき少し下がりましたが、休日も夜間も同時に、3人の出産ができる施設になっています。それだけの医師がいるわけです。交代して勤務してるわけです。

以前、西和医療センターは3名の産科医師でやっていました。夜間当番が3日に1回、何かあったら夜間、休日に出勤してくる。そういうことで、頓挫したというか、勤務環境としては認められないことになりました。そういうわけで、今はそれに加えて、研修中の専攻医を入れて20人に近い体制で、休日も夜間も週末も全部カバーする、そういう医療体制にしています。それから、カルテは電子カルテでどちらの病院のものも産科の医師は見れます。カンファレンスも両方でやっています。急に西和から総合に来て出産しているのではありません。それらの方々の診察はきっちりしていて、リスクのある方は早く入院してもらっているというような形になっていて、西和にまた作るとなると、そこに10数名の医師が必要となってきます。

とても医師が偏在していて、もっと言いますと、いわゆる消化器外科、消化器のがんの医師も非常に偏在して少なくなっています。全国です。そんな中で医師が分散するということは、医療の質を落とすことになっていきます。加えて、総合で出産される約4割近い方が帝王切開が必要となっています。

麻酔科医も24時間対応できないといけない。そういう今の時代のハイリスクの妊婦さん、あるいは、生まれた新生児の方々をどれだけきっちりケアするか、総合医療センターには、新生児用の集中治療室(NICU)、その後のGCUと言うんですけど、2つ合わせて、24人の新生児を看ることができる、そういう仕組みで、県立病院から総合医療センターとなる際に、それだけの設備を持っています。また、今申し上げた通りの医療者も、当然ながら助産師さんも含めて、そういうことをしています。

もう1つは、やはり連携というのは、今申し上げたように、その診療過程を全部理解してということです。紹介状を持ってきたというのだけではない状況にしないといけない。その意味において、機構内での医師や看護師さんが異動というか、どこに所属してるということでそこにだけいるのではなくて、各患者さんの医療体制をどのように計画するかということ、病状が悪化する前に双方でカンファレンスし、その方にベストの医療を提供するというそういうシステムになっていることを、皆さんご理解いただきたいと思います。以上です。

【山下知事】

はい。ちょっとスライド出してもらえますか。ちょっと見にくいかもしれませんが、今総合医療センターと西和医療センターでやってるその周産期医療は、オープンシステムとかセミオープンシステムというふうに呼ばれております。産前の健診は、西和医療センターでやっております。実際の分娩は総合医療センターでやっております。その産前産後の健診と分娩を行う、その2つの医療機関が、先ほど上田理事長がおっしゃったように、本当一体となって、情報を2つの医療機関が100%共有をして、万全の体制を組んでいると、そういうシステムでございます。このシステムは、全国で157もの産科の医療機関で採用されておまして、どんどんその数も増えていっているということでございます。増えていってる様子は、左下の方の青いグラフを見ていただければわかるかと思います。

先ほど上田理事長からもお話ありましたように、西和医療センターの産科医は3名でございました。それが医師の働き方改革によって、時間外労働が規制されるということになると、当然夜間や休日の救急には対応できなくなってしまうです。そうすると3名の医師で休日夜間の対応ができないまま分娩を受け付けるといったことの方が、これはむしろリスクが高いというふうに言わざるをえないと、私は考えております。理事長からもご説明があったように、今現在、総合医療センターでは20名の医者が、産科医がいて、NICUもあってGCUもあると。私も初めて知ったんですが4割の妊婦さんが帝王切開ということでございますから、やはりNICUとかGCUをきちんと完備した、そういう充実した周産期医療を提供できる3次医療機関で分娩を行うことの方が、むしろ私は、妊婦さんが安心するんじゃないかというふうに思っております。

そういうことで、健診ごとに総合医療センターに行くということであれば、その通院回数も多くなりますが、産前産後の健診は西和医療センターでできるということでございますので、地域の妊婦さんにとっての負担もそう大きくないというふうに思っております、今現在、こ

のシステムが大変うまく機能しているというふうに、私は県立病院機構の方から聞いておりますので、新西和医療センターが建設後もこのシステムを続ける方が、むしろ、妊婦さんにとって安心な周産期医療を提供できるものというふうに考えてございます。

それから道路の問題につきましては、ご要望に沿えるように、できる限り、開院までに対応して参りたいというふうに思っております。

またバスにつきましては、これは今後奈良交通さんと協議をさせていただきますけれども、奈良交通さんの方でもうまくいかないということであれば、複数の町が協議をして、Aという町からBという町にコミュニティバスを出す際には、県の方で補助できるという制度がございます。

また、コミュニティバスは町内だけで運行する例が多いんですけれども、今回のように、例えば、西和医療センターに行くために町を跨いでバスを運行させなきゃいけないとそういう場合には、県や国の補助制度がありますので、そうしたものを活用していただいて、ぜひ西和7町の方でもご検討いただければというふうに思っております。以上でございます。

【小池コーディネーター】

どうもありがとうございました。本当に今の時代の医療がどうあるべきかということに関しては、もう本当に幾らでも議論はできると思いまして、西和医療センターについてまだまだお話を聞きたいところですが、大変申し訳ありません、時間の関係もあり次のテーマもございしますので、次の方へ展開を移したいと思います。

ここからは、テーマの2つ目、「駅周辺のまちづくり及び利用環境の整備」、そしてテーマの3つ目「道路整備の加速化」という方向に話を進めたいと思います。これに関しても、まず山下知事からの資料の説明をお願い申し上げます。では舞台の方へお願い申し上げます。

【山下知事】

それでは「駅周辺のまちづくり及び利用環境の整備」、並びに「道路整備の加速化」について、私からまず説明をさせていただきます。

インフラ整備で奈良の潜在力を引き出すというふうに書かせていただいております。ここでいう一般道路とは、国道と県道を足した比率ですけれども、この一般道路の道路整備率が奈良県は全国最下位という状況になっております。人口あたりでございます。人口あたりで道路延長が非常に短いと、こういう状況でございます。奈良県の道路整備率はここに記載されているとおり34%、全国平均は61%ということで、全国平均の半分ぐらいということでございます。こうしたことが奈良県の道路が、朝、あるいは夕方のラッシュ時には非常に渋滞をします。土日で観光客が増えれば、それはそれでまた渋滞するというような状況になっていて、住民の皆さんの生活の利便性を低下させるとともに、企業活動にも支障になっているというふうに推測されます。

奈良県のポテンシャル、潜在力は何かということなんですが。豊富な歴史文化資源がある、

そして、関西の主要都市からのアクセスが良好である。それから、大学進学率が高くて優秀な人材が多い、そして世帯の貯蓄が多く消費活動も高い。一方で、商業系工業系の土地利用が低く、まだまだ今後そうした土地利用が延ばせる可能性があるということですが、そうした潜在力と見合うだけの今状況にあるのかというふうに言いますと、現状(課題)というところですが、奈良の観光はほとんど日帰りでございます。安い、浅い、狭いというふうに書かせていただいておりますが、日帰りなので観光消費額が少ない。それが安いということです。多くのお客様が奈良公園周辺の日帰りで終わっているということから、奈良の奥深い魅力を知っていただけてないそれが浅いという意味でございます。奈良公園周辺に移動の範囲が限られていることから、狭いという、そういうふうに言わざるをえないと思っております。

一方で県民1人あたりの課税対象所得額が県民所得と言っているかと思いますが、30年間、これは1992年と2022年を比べた比較でございますけれども、30年間で約2割も減っております。この下落率は実は全国最悪となっております。

1人あたりの県民所得や製造品出荷額等の経済関連指標も低位であって、人口は、ピーク時の1999年このとき145万ぐらいありましたけれども、そこから25年間連続で減少していて、今129万ぐらいになっているという状況でございます。

そうしたことから下の方に書いてございまして、県民生活や経済活動の基盤となる道路や鉄道駅周辺のインフラ整備、これが奈良県の大きな課題となっているということでございます。奈良県の道路整備の課題は何かというと、大きく言いますと、用地買収と埋蔵文化財の調査ということであろうと考えております。

「改革1 土地収用制度の積極的活用」というふうに書いてございますけれども、用地買収に相当な時間を要しています。用地買収が例えば95%を完了しても残り5%が完了してないと工事ができないということになってしまいます。国や地方公共団体が用地を買う場合には、皆さんもよくご存じのとおり、不動産鑑定価格以上で買うということは原則できません。その代わり行政に土地を売った場合には、その譲渡所得税が非常に安くなるとかそういうメリットがございますので、そうしたことでいつも地権者の皆さんには、道路のために土地を売って下さいというお願いをしてるんですけれども、どうしてもご理解いただけない地権者さんもおられます。その場合は、やむを得ず土地収用制度というのを活用して、用地の取得を速やかにしていかなければならないというふうに考えております。それから埋蔵文化財の調査に非常に時間がかかっているわけでございますけれども、今後は調査の発注方法を見直したり、調査体制の強化、具体的には、この埋蔵文化財調査に関わる人員を増やしたり、埋蔵文化財の調査の際に使う機材を充実させたり、デジタル化等、そうしたことで機材を充実したりして、埋蔵文化財の調査を加速化させていきたいというふうに考えております。そうやって道路整備の準備が整ったところから、重点的にその工事を進めていくということでございまして、選択と集中で準備ができたところから道路をどんどん整備していきたいと考えております。

個別具体的な話をさせていただきますけれども、これは生駒市の辻町のインターチェンジでございます。これは阪奈道路と国道168号が交差するところでございますけれども、現在大阪

方面の乗り降りのランプしかございません。奈良方面への乗り降りのランプがないという状況でございます、このためにこの辻町インターチェンジの大阪寄りが生駒インターチェンジ、それから奈良側が富雄インターチェンジですけれども、ここが非常に渋滞をするという問題がございます。これにつきましては、すでに昭和56年ぐらいから、この事業はしているんですけれども、昭和55年から令和3年までの間、事業化するための地元説明をするんですけれども、なかなか地元のご理解がいただけなくて、停滞をしていたという時期が非常に長く続いたんですけれども、昨年から本格的な調査に着手をしております、測量や地質調査それから予備設計、地元との設計協議というのをこの2年間で完了しております。今後、用地の幅杭の打設とか用地測量、それから境界の立ち会い、補償の調査等を行った上で地権者の皆さんと交渉して、用地買収の契約を用地買収の手続きを進めていきたい。そして、可能なら、令和8年度から工事に着手していったら、昭和56年からの大きな課題である、この辻町インターチェンジの問題を早期に解決していきたいと考えております。

それから香芝王寺道路でございます、国道168号線の香芝王寺道路。これにつきましては、黄色と赤と緑で着色しておりますが、この緑の一番香芝に近い方、こちらについては、令和6年度、具体的には来年の3月の供用開始を予定しております。それからこの赤の部分でございますけれども、土地収用制度を活用するというふうな方針を採用したところ、その土地収用手続きに至る前に、地権者様のご理解がいただけまして、すでにこの赤の部分というのは、用地買収が100%完了しております。ですから、香芝の中心市街地から香芝インターまでの間、こちらについては用地買収が完了しておりますので、令和7年度から、来年度から工事に着手して参りたいというふうに考えてございます。この黄色の部分、さらに北側の黄色の部分につきましては、現在、用地交渉を精力的に進めている区間でございます。この黄色の部分のうち、この王寺に近い方は、用地取得率が95%となっておりますので、こちらはある程度用地買収済んでるんですが、南の方はまだ用地買収が25%ということで、まだまだ用地買収に時間がかかりそうでございます。ご案内のとおり、この道路、非常に交通量の多い道路でございますので、早期に4車線化を図ることで、香芝市や王寺町をはじめ、周辺にお住まいの住民の皆さん、そして企業の皆さんに、ストレスなく、ここを通行していただけるように、努力して参りたいというふうに考えてございます。

それから、既存の道路の話でございますけれども、これは令和6年度、今年度から5カ年の計画で、「ならの道リフレッシュプロジェクト」というのを、今進めさせていただいております。具体的には、まず①舗装の耐久性向上ということで、非常に穴ぼことか、でこぼことか、ひび割れ、そうしたものが目立つ道路も少なくないわけでございます。特に、交通量の多い道路につきましては、すぐにひび割れとか、陥没が起こってしまう。なので抜本的な対策として、この道路の表面のみならず、下の方のこの路盤というところまで含めて、抜本的な改修をすることで、道路が長持ちするような、そういう抜本的な対策を講じて、穴ぼこ、でこぼこ、ひび割れに、すぐならないような、そういう抜本的な対策を講じていきたいというふうに思っております。

それから黄色線や白線の剥がれ、こうしたものもデータベースに基づきまして、計画的に補

修をして参りたいというふうに思っております。

それから草刈りが不十分なところもございますけれども、これは、草の生えそうなところを、もうコンクリートで埋めるといった形で、雑草が生えない抜本的な対策を講じていきたいというふうに思っております。こうした道路の維持、修繕が必要な箇所を、どう県が把握するかということなんですけれども、これまでは電話と県によるパトロールが中心だったんですけど、今後は、この国土交通省のLINEアプリを使って、LINEで県民の皆さんから修繕が必要な箇所の情報を提供していただこうと、そういうふうに思っております。

それから次、駅周辺のまちづくりと利用環境の整備でございますけれども、まちづくりにつきましては、基本的には市町村が主体となってやる人が多いんですけれども、奈良県におきましては県と市町村が、まちづくり連携協定というのを結んで、ともにまちづくりをするという、そういう体制を整えております。

まちづくり連携協定は、令和6年10月の時点で、27の市町村55地区におきまして、包括協定を締結しております。このうち、22の市町村38地区におきまして、包括協定からさらに1歩進んだ基本協定というものを結んでおりまして、さらに、14市町村23地区で、基本計画というのを策定しております。これまで58の事業をこの個別協定という、これが一番事業の熟度が高まった段階でございますけれども、この個別協定を結んで事業を実施したところが58となっております。ですから順番としては、まず包括協定を結んで、そして基本協定を結んで、個別協定を結ぶとこういう流れでございますけれども、県といたしましては、この包括協定と基本協定を結んだ自治体が基本構想や基本計画を策定するにあたって、その計画策定費の2分の1を県が補助すると、そういうスキームを設けております。個別協定の締結まで至った箇所につきましては、ハード事業への補助に対する市町村負担額の4分の1を県が補助するという制度を設けております。それから、ソフト事業に対して市町村が補助金を出す場合、その2分の1を県が負担するという制度を設けております。

このスキームをもとに様々な事業を展開してきてるんですけれども、このスキームに基づきまして、今後、近鉄郡山駅の移転という事業を今進めようとしております。ご存じのとおり、近鉄郡山駅は、非常に道路も狭く、車道と歩道の動線も分かれておりません。もちろんロータリーといったものもございませんし、バスが駐停車できるようなスペースもございません。そうしたことから、現在近鉄郡山駅がある場所からちょっと北側に駅を移動させまして、そこでこういうきちんとしたロータリーもあるような駅前広場を整備するという事業を、近鉄と郡山市様と県で協定を結んで、今後実施していく予定でございます。目標といたしましては、令和12年度に新駅舎を供用開始して、令和14年度に、駅前広場のグランドオープンを目指すということを考えてございます。現在、この近鉄郡山駅周辺では、郡山市さんの方が大変汗をかいて、様々な事業に取り組まれております。大和郡山まちづくり株式会社というのが設立されて、城下町の古民家を、リノベーションして、カフェにするとか、複合店舗にするとか、福祉作業所にするとか、様々な取り組みをされております。これについては後程、郡山市長さんからお話があるかと思います。

駅のバリアフリー化についてでございますけれども、駅のバリアフリーを進める仕組みでございますけれども、スライドの上にご覧いただけますとおり、バリアフリー法によりまして、市町村がバリアフリー基本構想を作成し、そして、重点整備地区を定めてバリアフリーの整備を行っていております。すでに、このスキームを用いまして、多くの駅がバリアフリーになっております。県といたしましては、このバリアフリーの基本構想の作成、その後の工事について県として支援をしております。県としてこうした取り組みを支援していらっしゃるんですけども、現在、まだ、当地区におきましてバリアフリー化未実施が近鉄南生駒駅ですけれども、こちらの方は令和7年度以降、工事がなされると聞いております。それから一分駅もバリアフリー化がまだできてないというふうに聞いております。それから、まだできてないけど基本構想が策定されたところが、河合町の近鉄大輪田駅、バリアフリーもできてないし、基本構想も策定できていないところが、近鉄平郡駅と近鉄信貴山下ということでございますので、今後、市町村と協議を進めまして、バリアフリー基本構想が策定されれば、県としても、こうしたまだバリアフリー化されていない駅のバリアフリー化に向けまして、ご支援をさせていただきたいと考えております。私からの説明は以上でございます。

【小池コーディネーター】

山下知事ありがとうございます。では席の方へお戻りください。ではここからは先ほどのテーマ1つ目と同様に意見交換を行います。ただ、コーディネーター側から申し訳ないんですがお願いがございます。今までの議論の中で、時間がかかり押してきておりまして、この会場の使用時間というのも実はぎりぎりという感じをお願いしておると思いますので、大変恐縮ですが、これから発言される方もおられますので、皆さんの発言について、なるべくコンパクトな形で、ご協力を申し訳ございませんが、お願いいたします。

では、こう言うと言いにくいんですが、すぐお隣の方にまずは話を振ります。まず駅周辺のまちづくりの舞台としても、お話が出ました大和郡山市の声を聞きます。市長の上田さんお願い申し上げます。失礼します。

【上田大和郡山市長】

はい。もういきなりプレッシャーかけられましたので、コンパクトに、はい。単刀直入に、この郡山も駅の課題というのは城下町ならではのものであって、最大の課題は、車と歩行者の混在ということです。歩車分離が最大のテーマであります。現在のストックも生かしたコンパクトなまちづくり、考えてみれば城下町こそコンパクトシティであるので、Smart城下町と言ってましかれども、そういうものを目指していこうと、近鉄、それから県、市と連携をしてやらせていただいているわけですけども、引き続きよろしく願いいたします。1つだけ、この過程で、三の丸駐車場という最大の駐車場の解体が令和8年から始まります。これは法的に仕方がないんですが、それが再来年の大河と重なることに、非常に恐怖をいただいております。オーバーツーリズムへのチャレンジということを求められるだろうということで、今橿原線との間の立体

交差、城廻り線、県で進めていただけていますが、その辺もご配慮いただいて、1つしっかり応援をいただければありがたいなというふうに思っているところです。これが1点。

それから、21ページにありますソフト事業の方ですけれども、このリノベーションまちづくりというのは、スタートがリノベーションスクールということでした。これは県内外、東京あたりからも受講生がこられましたけれども、受講生とそれからオーナーも交えて、合宿形式でいろんな議論をしながら、オーナーの了解も得ながら、資金計画も立てて、ビジネスプランを打ち出すという、そういうスクールですけれども、その受講生によって、まちづくり株式会社ができました。これが市と連携協定を結んで、現在、古民家の利活用を進めているところです。市と連携協定を結ぶことによって、オーナーさんが、市が後ろにいるんだっただけということでは信用に繋がるわけでありまして。それでその図にあるように今5件。これ皆複合施設でありますけれども、完成をすでにしています。今進行中のものも実はあるわけですが、その中で、最近オープンになったのが、左端の柳町フラット。これはもとは歯医者さん。いわゆるウナギの寝床でずっと奥に深い、そこにリノベーションの結果、入口にカフェができ、2つ目に、チョコレート専門店、20代の若者が店を開いて大変評判になり、3つ目にバーができました。ここは地ビールを中心に売っていますが、ぜひお越しいただいたら、ちょっと不思議な古民家の空間で楽しめると思います。一番奥は、これは若い人の発想です。貸し切りサウナ。まだオープンしてませんが、サウナに入ってまちをゆっくり散策するという、そういうコンセプトですけれども。こういうふうなリノベーションの結果、オーナーさん、今県外で仕事をしておられるんですけれども、長い間、ほったらかしになっていた実家がこういうふうに生まれ変わったということで、非常に感激して、オープニングでは涙を流して喜んでおられました。最後に、トイレの窓が昔の歯医者さんの窓をそのまま残してるので、古い町と新しい町の何ていうか共存というのか、これからそれを目指したいと思います。

【小池コーディネーター】

ありがとうございます。続いて、道路事業などが先ほども紹介されておりました香芝市から、三橋市長の声を聞きたいと思います。三橋さんお願いいたします。

【三橋香芝市長】

香芝市でございます。道路事業と言いますけれども、前提として、本市で今実施しておりますのが、令和6年9月3日に第一次香芝市都市計画再編基本方針を策定いたしました。内容としましては、五位堂駅、下田駅、二上駅等の市内の主要な駅前の商業地域における高度地区による高さ制限の緩和です。現状31メートルになっておりますが、これを主に45メートルに緩和していく、建物でいうと11階建てぐらいしか建てられなかったものが、14～15階くらいまで建てられるようになるというところでございます。奈良市や橿原市と違って、真横に文化財があるといった地域ではございませんので、経済活動の基盤となる行政規制をしっかりと緩和していくという方針を今進めているところでございます。市街化調整区域の見直しについて

も、奈良県知事にもお願いをしているところでございますが、それを行いますと、駅周辺の交通関係もやはり輻輳してくるというところでございます。今、国の方で、国道165号の香芝柏原改良を4車線化しておりますが、実は中和幹線の一部なんです。中和幹線というのは、まだ完成していないというところを、実はご認識いただいてない方が多くいますけれども、この県境に向かう香芝柏原改良、これをしっかりと進めていただく。そのために、埋蔵文化財発掘調査を奈良県でしていただくべきところですが、本市が協力させていただいて、実施をしているところでございます。また、隣の大阪府柏原市長にも、これに力を貸してくださいというところで、合意もとっているところでございます。これをまず、奈良県と一緒に、国に要望をしていきたいと思っています。

また、市でも実施しております近鉄大阪線五位堂駅南側駅前広場整備基本構想を令和6年12月18日に策定し、発表させていただいたところでございます。また奈良県で実施しております国道168号の香芝王寺道路、先ほど奈良県知事からもご紹介ございましたけれども、市としても、周辺の地権者に、円滑な土地の取得に向けて協力していただくようお願いをしてきたところでございます。西名阪香芝インターチェンジ等の接続もあり、大動脈だと思っています。そういったところをしっかりと整備を進めていく。これがやはり必要かなと思っています。それこそが、次世代に繋がる活気あるまちづくりに繋がるのではないかと思います。

ここで1つ知事のお耳に入れさせていただきたいのですが、香芝王寺道路、大変感謝しておりますが、通学路にもなっている横断歩道橋の架け替えについて、5,200万円もの多額の費用を、奈良県から本市に請求されているというところなんです。これが私にはなかなか理解できないところございまして、確かに前市長とのお約束というのもあったのかもわかりませんが、調査したところ、県道国道の道路の横断歩道の架け替えを地元市町村が負担したという事例は1つもないそうです。なぜ香芝だけという思いもございします。通学路にもなっておりますし、一般の交通にも供しているところですので、ぜひ、知事にももう一度ご再考いただきたいなと思っています。

将来に向けて、いい街にさせていただきたいと思っています。奈良県と連携させていただきたいと思っていますので、引き続きよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

【小池コーディネーター】

ありがとうございます。それに関しては、ぜひ香芝市さんと県の方でお話を進めていただければと思います。ありがとうございます。

道路に関しての取り組み、そしてご意見、次は王寺町の平井町長に聞きたいと思っています。平井さんよろしくお願いいたします。

【平井王寺町長】

はい、王寺町でございます。今道路ということで、意見を言わせていただくんですが、時間の関係もありまして、道路と駅周辺のまちづくりということで、もうセットでお話をさせていただくことをお許しいただきたいんですけど、駅周辺のまちづくり、王寺駅です。ご案内のように、生駒郡、北葛城郡、17万人の拠点駅です。そして、今1日あたり4万人超のご利用があると。この拠点駅の駅周辺の整備を、ずっとやってきております。県とは、56年ぐらい、もうかなり早いうちに包括協定は結ばせていただきました。ただ、駅の北と南とかなり様相が違いますので、北と南と分けて、基本計画を今作ろうとしております。北の方は何とか基本計画までできました。今後、南エリアの基本計画、王寺駅の南エリアの基本計画を作っていこうというふうにしておるわけでありまして、このときに、先ほどいろいろ、今回議論ありましたけども、西和医療センターの話はもうここでは触れません。ただし、拠点駅の周辺で医療機能がなくていいのかということにつきましては、実は、私自身それは必要なんだろうと思っております。そういった駅の周辺の機能面で、どういったものを整備していくか、これは早急に詰めさせていただきたいですし、まちづくりについて県の方も入っていただいて、再整備検討推進会議なるものを作っておりますので、またできるだけ早急に、こちらの方の検討をお願いしたいなということが1つ、駅周辺がということであります。

王寺駅のことで、将来的に、今、2037年にリニア中央新幹線が、多分、新大阪、それと東京が繋がる。その影響が、JR沿線、大和路線の一番拠点駅である王寺町に影響があるのは当たり前でございます。どこに駅ができるか、これ私も分かりませんが、10分、20分で、奈良市付近駅から王寺には着くだろうと。そういうことからしますと、品川から想定ですけども90分前後で王寺駅に降りられることになる。そうすると王寺駅、王寺町だけじゃなくて、西和地域全体の生活スタイルが変わってくるんじゃないか。90分ですから、ひょっとしたら通勤圏内。王寺駅周辺に王寺も含めてですけど、周辺の西和地域に住まれて、自然も多いといったところで住まれて、東京に働きに行くという新しい生活スタイルが、ICTも進んでいきますんでといったことが当然予測される。そういう将来のことを想定して、ぜひ県のお力もお借りして、駅周辺のまちづくり基本計画を作っていきたい。これがまず1点なんですけど。

駅周辺に欠かせないのが国道25号の整備であります。国道24号が、JR王寺駅のちょっと東側を跨線橋で跨いでおります。この国道25号、プラス北のほうへ行けば大和川を越えます。1.2キロ区間なんですけども、非常に渋滞して、今、西和医療センターがあり、西和消防署があって、1時間に1回平均で、私の役場の前を救急車が通っていきます。こういう、平時、それから救急も含めて、それからプラス防災。拠点の国道25号の改良を県の方には継続して要望はさせていただいておりますけども、何とか、この改良の新規事業化を、県の方で、まずは、これは直轄国道ですので、県さんと一緒になって、ぜひ、新規事業化に持っていければありがたいなというふうに、これも強くお願いをさせていただきたいなというふうに思っております。予定の時間がなんぼあっても足りません。以上でございます。ありがとうございました。

【小池コーディネーター】

はい。平井町長、夢のある話も含めてありがとうございました。道に関しては、インターチェンジの関係も話題になりました生駒市も話題となっております。

市長の小紫さん、続いてちょっとコンパクトでお願いいたします。よろしくお願いいたします。

【小紫生駒市長】

はい。生駒市長の小紫でございます。生駒市も駅周辺の話と道路整備、両方関係し、とても3分では話せませんが、どちらにも繋がるという意味で、まとめてお話をいたします。先ほど知事からもありましたように、生駒市もベッドタウンですので、非常に少子高齢化の影響が大きく出る。それでどういうふうに市として、収益を確保して、施設に備えるかという意味で、大きな行動転換が求められるのは、本当に生駒市のようなまちであると思います。そのため、知事からもありましたように、ベッドタウンから卒業して、観光面だったり、産業振興等、経済の活性化をしっかりとやっていく必要があります。

そういう文脈で大切にしている地域が2つあります。1つは生駒駅です。北口の方は山下知事が市長のときに、綺麗に再開発されましたが、生駒駅南口の方をどう再開発をするのか。そしてもう1つは、北部の学研北生駒駅から高山地区第2工区にかけての地域について、次の50年の発展の礎をどうするか、この2点が非常に大きな課題になっております。

生駒駅の南口というのは、市の土地がほとんどない地域でございますので、地域の方と連携をしていますが、先ほど大和郡山市長の話もありましたように、その地域の市民の皆様のソフトの力も最大限活用しながら、どう南口を開発していくのが重要になります。また、南口というのは宝山寺への参道、そして生駒山への入口であります。東京に高尾山という、600メートルないぐらいの山があって、この山が世界で一番登山客の多い山だということなんですが、どう考えても生駒山というのはそのポテンシャルに負けてないだろうと思っておりまして、生駒山を、西の高尾山のようにしていくために、観光面でもそうですし、それに伴う様々な駅の開発や、工夫、そういうものをやっていきたいと思っております。知事が宿泊施設の誘致等に非常にお力を入れているということはよく理解をしております、奈良市とか吉野の方だけではなくて、この生駒山や、生駒市内のビジネス利用のホテル、先ほどの王寺町長のお話もありましたけれども、リニア等の影響を受けたビジネス的なホテルの誘致、あとは生駒山の夜景等を活用した新しい宿泊施設、そんなものも含めた整備をしっかりとしていくことが、まちづくりとして重要でございます。生駒市は県とまちづくり協定を結んでいない数少ない自治体の1つでございます。まずはしっかり生駒市の方でプランを立てて、県のご理解をいただいて、この協定を結んでいきたいと思っています。

もう1つ北部地域の方なんですが、学研北生駒駅、そして高山地区第2工区につきましては、かなり動きが出てきてまして、準備組合の設立等が今始まっております。県のお力もいただきながら、生駒市でできる部分を進めておりますが、やはりこういう拠点を開発していくにあたって、常に事業者さんから聞かれるのが道路の整備ということで、具体的に申し上げれば国道

163号線のバイパス。この辺りの整備をしっかりとやっていきたいと思っておりますので、県の方も今すでにお力いただいている部分でございますが、さらなるご支援をいただき、高山第2工区というものを、生駒市のみならず、奈良県、そして近畿のど真ん中にある地域でございますので、リニア等の動きとあわせて、開発を進めていきたいというふうに思っております。

最後に道路整備が遅れているというお話がありましたけれども、南部地域の命の道というような言葉もあって、そのあたりの道路整備というものが奈良県の中でもかなり重要視されてるところはあって、これはこれでももちろん大切ですが、やはり、北和や、西和、あるいは、経済発展活性化や、観光などの産業振興に直結するような、ストック効果が非常に高い道路の整備というものにつきましても、県の方の先ほど優先順位をつけてというお話もございましたが、ぜひ、こちらの方もよろしくお願いをしたいということでございます。

最後でございますが、辻町インターにつきましては、動きがあまりにも少なかったのですが、山下知事になられましてから、非常にスピード感をもってご対応いただいておりますこと感謝申し上げまして、私からのお話とさせていただきます。ありがとうございました。

【小池コーディネーター】

小紫市長どうもありがとうございます。急かしまして申し訳ございません。それでは、次は会場をご提供いただきました安堵町のご意見を伺います。富井副町長、お願い申し上げます。

【富井安堵町副町長】

はい。それでは、安堵町からは、道路整備の加速化について述べさせていただきます。安堵町は、昭和工業団地に隣接する安堵町工業団地のさらなる企業立地に、近年力を入れて取り組んできたところでございます。町内には東西及び南北に大きな道路が計画中であり、大和中央道からの東西線は、まほろばインターチェンジの開通に伴い、交通量が増加して、早急な道路整備が求められます。安堵町内での工事が進められている国営遊水地事業として、安堵町の要望を盛り込んだ根幹をなす東西線が、国土交通省の責任のもと、大和川沿いに繋がることとなります。この道路が完成をすれば、大和中央道より大和郡山市道、そして安堵町道を経由して、御幸橋を通り県道大和高田斑鳩線まで繋がるため、安堵町及び近隣地域全体の生命線となります。県道承認については、何卒、是非ともお願いしたいと思っております。

この道路は、新西和医療センターへの通行路と同時に、遊水地に隣接して、実は、国の整備を予定しております。窪田地区、河川防災ステーション内、ヘリポートからの緊急輸送路としても重要な役割を果たします。さらに、国道25号線の渋滞緩和や、法隆寺インターへのアクセス等、交通網の利便性も飛躍的に向上いたします。既存施設をそのまま活用することで、新たな用地確保、そして過大な資産投資をすることなく、広域的な経済活動が見込まれるものと考えます。

2つ目は、町内の南北に位置する県道大和郡山広陵線、北伸について、奈良県で調査路線として認定をされており、この延伸の完成により、国道25号線へのアクセスが格段向上いたしま

して、地域の活性化、もとより魅力が高まることが期待できます。事業成功に導くことで、さらに住みやすく発展的な地域へと進化したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

【小池コーディネーター】

富井さんありがとうございました。それでは、次は広陵町の山村町長の声を聞きたいと思います。山村さん、お願い申し上げます。

【山村広陵町長】

広陵町長の山村でございます。今日はこのような場を設けていただきましてありがとうございます。私の方も道路の整備についてお願いをしたいと思います。県の方も、インフラ整備で奈良の潜在力を引き出すということで、道路整備、また工場用地の造成等については、県から応援していただいております。感謝を申し上げたいと思います。企業立地には、やはり骨格幹線道路のネットワークというのが必要だということは、もう申すまでもないことでございます。

広陵町では、県道桜井田原本王寺線の沿道で箸尾工業団地の造成を進めてございまして、令和6年度に完成する予定となっております。この県道は、中和地域の東西幹線として都市計画決定されておまして、ただ、広陵町寺戸地区の区間が未整備となっております。現状は、南北幹線の県道大和高田斑鳩線を重複迂回するために、東西と南北の主交通の輻輳による渋滞が発生しておりますので、ぜひ、この未整備の区間の整備をお願いできたらというふうに思います。なお、加えましてこの県道大和郡山広陵線との交差点にございます鳥居大橋、この交差点には右折レーンがございませんので、大渋滞を起こすということで、事故も頻発しております。箸尾工業団地も近接しておりますので、交通安全の観点からも、暫定対策を含め、早期の解決をお願いしたいと思います。広陵町は国道のないまちでございます。県道、中和幹線、大和高田斑鳩線、桜井田原本王寺線とこういった県道に依存しているということで、県道の整備をぜひ進めていただけたらというふうに思いますのでよろしくお願い申し上げます。

それともう1つは、景観形成でございます。雑草の除草、歩道部分に非常に草の繁茂が激しいわけでございます。しかし、日常管理に予算が必要でございますので、こちらの管理をぜひ進めていただければと思います。広陵町内のこの桜井田原本王寺線の歩道をとらえた写真を撮られまして、雑草が繁茂した写真を、奈良県の残したくない景観に選定されたという経緯もございますので、ぜひお願いをしたいと思います。維持管理の拡充もあわせてお願いしたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。私からは以上でございます。

【小池コーディネーター】

山村町長ありがとうございました。今回もいろいろなご意見が出ましたがこれらの意見を踏まえ、知事からの総括的なお話をいただきたいと思います。山下知事、よろしくお願いいたします。

【山下知事】

はい。まず個別的なことに关しまして少し言及させていただきまして、平井町長の方から王寺駅の南口の整備についてお話がございました。確か、王寺駅は今奈良県で一番乗降客数の多い駅になっているかというふうに思います。さらに、平井町長がおっしゃったように、リニアの駅が、今県内の候補地は、JR平城山と、そして新設される八条駅と、それと近鉄橿原線とJR大和路線の交差するところ、この3ヶ所となっております、今JR東海の方でボーリング調査等をしてるんですけれども、今その3ヶ所のどれかになるとすると、いずれにしてもJRと繋がるんです、リニアが。そうしますと平井町長がおっしゃったように、王寺駅のポテンシャルも非常に高まるんじゃないかというふうに思っておりますので、王寺駅の南口の再整備につきましては、県としても非常に意義のある事業だと思っておりますので、今後お話し合いを深めさせていただければと思っております。

また、国道25号線の整備につきましても、町と共同して国の方に働きかけをしていきたいというふうに考えております。

それから生駒市の小紫市長の方からは、生駒駅の南口それから学研高山第2工区、そして学研高山第2工区の玄関口である学研北生駒駅の整備についてお話がございました。この学研高山第2工区、ここまで非常に大変ポテンシャルの高いエリアだというふうに私は思っておりますので、このポテンシャルを生かしたまちづくりができるよう、今後市と緊密に連携していければというふうに思っております。

その他、市長さん、町長さんから多くのご意見をいただきました。いずれの皆様方からもやはり道路整備に対する要望というのが非常に大きいということがわかりました。それは冒頭説明しましたように、奈良県の道路整備率が全国47位という状況ですので、やはり基本的にその道路の絶対量が少ないんだというふうに思います。ですから、財源が限られてますので、一遍にすぐというわけにはいきませんが、その優先順位をよく検討した上で、なるべくご要望に早期にこたえられるように、今後とも、ご意見を聞きながら道路整備を進めさせていただければと思っております。

今日お集まりいただいている市長さん町長さんが行政をされているエリアというのは、本当に比較的大阪に近くて、人口も多くて、そして鉄道もそれなりにあると。しかしやはり道路が不十分であるという、そういうエリアだと思っておりますので、この道路を整備することで、住宅としての利用も拡大するでしょうし、それから企業誘致なんかも、もっともっと進んでいくものというふうに思っております。また企業誘致を進める上で、市街化調整区域の土地利用につきましても、今それをどう円滑に進めていくのか、県の方で新たな対応を検討しているところでございますので、またそうした点でも各市町と協力して進めていければというふうに思っております。本当に今日は貴重なご意見たくさん伺うことができました。どうもありがとうございました。

【小池コーディネーター】

どうも、ありがとうございました。本当にいろんなご意見が出て、どれもまだまだ掘り下げてしゃべることのできる内容がいっぱいあるんですけど、本当申し訳ございませんが、時間の関係で、ここからまたテーマを先に進めさせていただきます。

最初に申しましたように、ここからは会場の皆さんのご意見に対する質疑応答に入ります。皆さんに事前にいただいた質問について、登壇者より回答いただきます。ただ申し訳ございませんが、本当に時間の都合上、すべての質問を取り上げることはできませんのでご了承ください。また、今予定していた一部のご回答については、割愛させていただくことになりますので、これも皆様にも申し訳ございません。ご了解いただければと思います。

まず、テーマ1の西和地域の医療体制、新たな西和医療センターについてのご意見の中から、取り上げたいと思います。最初は、今後の西和医療センターの医療従事者の人材確保の方針や、周辺地域の医療機関との連携について聞かせてくださいというご意見をいただいております。これのお答えですが県立病院機構の上田理事長からお願い申し上げます。

【上田県立病院機構理事長】

はい。皆さんご存じかと思うんですが、奈良県で、初期臨床研修という、医師が医師免許を取って、2年間、法律で決まった研修するんですが、去年は全国1のフルマッチです。今年は兵庫県が1位で、奈良県が1人足りないというぐらいで、比較的医師が確保できているところでございます。

また、県内にも、看護師さんの養成学校もあり、大学もあり、比較的、医療人材が確保できていると思います。問題は、先ほど申し上げた医師の偏在です。夜間救急対応するとか、そういった診療科へ行く医師が少なくなってきました。先ほど、「週に5日間、8時間働いたらいい」というような診療科には医師が多いんですが、緊急であったり、産科については、県をあげて産科医療のための支援等をしていただいたことによって、今申し上げた総合医療センターには、西和医療センターと2ヶ所で働いてる医師が20名、そのうち5名は専門医になるための研修中ではございますが、そういった意味で、今現在のところ、何とか医療従事者は確保できていると思います。

その他の療法士さんや検査技師、臨床工学士さんという、いわゆる医療機器を管理する人たちも大勢おられて、人手が足りなくて困っているという状況ではなく、特に県立病院機構ができてからの日頃の診療体制、また専門職の教育体制が強化されたことを評価されたこと、奈良県立医科大学も含めて、そういった教育体制を維持していただいている、研修体制を維持していただいている、その結果だと思っております。

今のところ、それほど人手が足りなくて、診療科を閉鎖するといったようなことは全くございません。

【小池コーディネーター】

はい。どうもありがとうございました。それでは西和医療センターに関してはまた1つ質問がきております。診療科の拡充など新たな西和医療センターに県が期待する役割について教えてくださいという、知事さんからご回答いただく予定だったんですが、申し訳ございません、割愛させていただきます。山下知事、申し訳ございません。

それでは、医療に関しては、市町村に対しての意見も届いております。これ生駒市在住の方から寄せられたものですが、各市町村における医療提供体制の充実のための取り組みをお聞かせくださいというものです。お2人から回答をお願いします。まず生駒市長の小紫さんお願いいたします。

【小紫生駒市長】

はい。ありがとうございます。コンパクトに話したいと思います。生駒市はいろんな病院、診療所がありますが、やはりこれも山下知事が市長時代に、生駒市立病院の誘致ということで、お骨折りをいただいて、ちょうど私が市長になった直後に生駒市立病院がオープンいたしました。病院がオープンしたときに、やはり始めはどうしても医師や、いろんなスタッフが足りないということで、なかなか苦勞もしたのですが、今は体制もかなり整ってきています。先程来ございましたような分娩、周産期医療につきましても、生駒市立病院は、210床しかない、中規模の中でも比較的小さめな市立病院ですが、毎年200名弱の赤ちゃんが生まれて、近畿大学奈良病院さんが分娩を停止するという中で、県総と並んで非常に多くの子どもを取り上げているということで、生駒市立病院でご出産ということをお考えいただくようなこともあれば、ありがたいなと思います。

また何よりも、救急関係の体制もしっかりとっておりまして、さっき申し上げた210床の病院ですが、毎年約4000件の救急患者さんが運ばれて、しかも、救急応需率という要請があったときに救急患者を受入れる割合が95%あるというのは、大変胸を張っています。普通の病院だと大体6割弱なので半分はお断りしてる状況に対し、生駒市立病院は、ほぼすべて受け入れ、しかもその件数が4000件ある。生駒市以外からも北和、西和、奈良県内から広く生駒市立病院に来てるということでございます。そうすると、もちろんベッドも増やしていかなきゃいけないですし、医療スタッフも増やしていかなきゃいけないということで、生駒市立病院では、新人のお医者さんの研修を受ける、そういう病院にも認定をされたり、病院の関係は指定管理を徳洲会にお願いしていたり、そのグループ内での連携でありますとか、医療スタッフについても今整えているところでございます。

最後になりますが、先程理事長さんからもありましたように、すべての診療科を生駒市立病院でできないということもありますので、やはり強い診療科、どちらかという、他の病院との連携が必要な診療科というのを、当然でございますけれども、生駒市立病院は頑張ってるということと、奈良県全体で医療ネットワークをきちんと作っていくことで、先ほどの分娩や救急などを生駒市立病院が、またそれ以外の部分は他の病院で行うといったように、医療というの

はやはり県のリーダーシップの中で各市町村も頑張ってやっていき、また、民間病院もやっていくということでございますので、病院スタッフの拡充とあわせて、市町村の病院も頑張っているということで、一例をご紹介させていただきました。どうもありがとうございました。

【小池コーディネーター】

ありがとうございました。

続いて医療体制については、上牧町の今中町長にも地域医療に関する取り組みについて、お聞かせいただきたいと思います。今中さんよろしく願いいたします。

【今中上牧町長】

はい。よろしくお願いします。今、生駒の小紫市長からお話があったように、上牧町の場合、町立、公立の病院を持っておりませんので、我々としては、医療と介護の連携強化、この部分で、しっかりと取り組みを行っているというような状況でございます。入退院時の連携、当然、県の保健所の指導のもとで、西和地域7町、それと医療機関、ケアマネ等が連携をいたしまして、平成29年度に西和地域7町における入退院連携マニュアル、これを作成をさせていただきました。今、運用を開始しているということでございます。運用開始から、8年目を迎えておるわけでございますが、入退院時のルール、このルールというのは、当然、介護保険利用者の入院後3日以内に、ケアマネが病院に利用者情報を提供する。そして、退院5日前までには、病院がケアマネに退院日を伝え、在宅環境を整えてから退院できるように連携をすると、こういうことが、今、西和7町では定着しつつあるという状況でございます。

それとまた医療関係者と在宅の専門職との顔の見える関係、これもしっかりと構築ができてきているのではないのかなと考えております。医療や介護を必要とする住民の方々に、双方が連携して関わることで、シームレスな支援に繋がっているというふうに考えているところでございます。以上でございます。

【小池コーディネーター】

どうもありがとうございました。医療に対する質問に続いて次のご質問に行きたいと思えます。テーマの2つ目、「駅周辺のまちづくり及び利用環境の整備」へのご意見です。いただいたご意見は、奈良市と生駒市にお住まいの方からです。貴重な意見、本当にありがとうございます。行政がまちづくりの展望を掲げることがまちの発展に繋がると考えますが、駅周辺の整備において最も重視することをお聞かせくださいという質問です。これにも、お2人からお答えをお願いいたします。まずは大和郡山市上田市長、よろしく願いいたします。

【上田大和郡山市長】

基本的なものの考え方、方向性というのは、もう非常に大事だと思います。近鉄郡山駅周辺ではこの城下町にある駅ということで、城下町の風情を生かし、いきいき暮らせるまちづくり

というのをコンセプトにしました。そこで対象とする人は、決して生活者だけではなくて、学生さん、通学者もいます、通勤者もいますし、あるいは観光交流、いろんな形で来られる方々を、広くとらえて、そして、そうした方々にとって居心地のいい、駅周辺のまちづくりをしていきたい。それから、駅だけではなくて、周辺のまちづくりについても、1つのコンセプトというのか、それは、まちの歴史や人の思いを大切にするまちづくり、これは歴史ある城下町ならではのことだと思いますけれども、こういったコンセプトをもとにして、官民連携ということを手法として、取り入れていこう。その中で特にソフト事業である、古民家のリノベーションについては、若い人の力、これがもう非常に大きい。

今ひとつだけ例を挙げるとオカマチ荘といって、リノベーションを始めてますが、例えばそのリノベーション過程も公開をして、DIYをみんなでしよう。そんな動きを今しているところがあります。市民ともども進めていきたい。これからの1つの方向性として私たちはそう考えております。以上です。

【小池コーディネーター】

ありがとうございます。この会場の皆さんからの質問には王寺町の平井町長からも、王寺における取り組みを聞きたいと思います。平井さんよろしく願いいたします。

【平井王寺町長】

はい、ありがとうございます。駅周辺のまちづくりで重視すべきことということなんですけど、我々王寺町の場合は、先ほど申し上げました、王寺駅、西和地域の拠点駅の王寺駅と、それから実は和歌山線で畠田駅という、これは地域の拠点というふうに言っていると思うんですけど、2つの駅が町内にございます。今、両方の駅周辺のまちづくりをいろいろ計画、構想してるわけなんですけども、駅周辺の整備で何を重視するか、これは郡山市長のお話と重なるかもしれませんが、やっぱりそこに住む住民の方、そして、利用者の方が、こういったニーズといいますかね、駅、あるいは、駅周辺にどういう機能を求めてられておられるかということに、その見極めに尽きるんじゃないかなというふうに思いますし、先ほど申しました王寺駅については、将来のことも含めて、地域の拠点駅としていろんな機能、先ほど医療の話もしましたが、商業施設があるのか、あるいはレクリエーションといったそういう機能もあっていいんじゃないとか、広域としての必要な機能をどういうふうに見極めてやっていくか、プラス、これも郡山市長がおっしゃったようにその時に、官民連携といいますか、民間の力をどういうふうに活用させていただくかと、これも大きな視点なのかなというふうに思ってます。

先ほど申しました畠田駅という地域拠点の駅もあるんですけども、こちらは今、駅前広場の整備を進めておりますが、こちらの方で重視してますのは、地域の拠点となる商業施設、これを何とかまず確保するという。それから、安全安心で実は交番を誘致できたらなど、こういったことも思ってます。そういう意味で、各駅の地域の性格自身が違いますので、特性に応じて、利用者、あるいは住民の皆さんのニーズを見極めて、必要な機能をできるだけ行政も、

核になって、民間の力もかりながら、整備をしていくということなのかなというふうに思っております。以上です。

【小池コーディネーター】

どうもありがとうございます。続いての会場からのご意見、これは、香芝市にお住まいの方からです。香芝の五位堂駅について、乗降の人数で人口に比較して店舗などが少ないと感じております。馬見丘陵公園もあり、駅周辺にこういった施設が増えれば活性化に繋がると思いますが、先ほど市長触れてもらっていましたが、今後の開発についての方針があれば聞かせてくださいという質問です。香芝市三橋市長、お願いいたします。

【三橋香芝市長】

ご質問ありがとうございます。近鉄五位堂駅に関しましては、1日当たりの利用者数が大体2万5,000人前後で推移しております。これは大和八木駅に次いで、乗降客数が多い駅となっております。先ほど申し上げましたけれども、五位堂駅と二上駅、特に二上駅は急行電車がとまらない駅の中で、最も乗降客数が多い駅ですけれども、こういった主要駅前の高さ制限、高度地区による建築物の高さ制限を、31から45メートルに緩和します。緩和により何が起こるかといいますと、今まで31メートルの建物が開発されてきたか、建設されてきたかというところと決してそうではなくて、マンション等と言いますと11階ぐらいになるため、それだとやはり採算がとれないということで、他の地域、ひいては県外に流出してしまっていた。こういった開発の需要を五位堂駅、二上駅周辺に呼び込むことができると。そうすると、15階建てぐらいのマンション等の高さの建物が来てくれるだろうと。地区計画によってしっかりとプランニングしていかなければいけませんけれども、1階、2階、3階等の低層階に関しましては、できたら商業施設、あるいは医療施設等、小児科等がかなり少ないですので、そういった地域住民の皆さんにもご利用いただけるような施設を誘致して参りたいと思っております。そうすることで、乗降人数に見合う駅前が開発されるのではないかと考えています。行政だけではなかなか難しいですが、民間の活力をしっかりと生かして参りたいと思っております。

特に五位堂駅に関しましては、本市住民だけではなくて、広陵町、上牧町、また大和高田市や葛城市のお住まいの皆様にも多くご利用いただいておりますので、奈良県の方からも財政的なノウハウのご支援もいただければと思っております。本当に五位堂駅の整備、特に南側ですけれども、基本構想を定めたところでございますので、しっかりと開発に向けていきたいと思っております。

今まで自家用車だった方もいると思いますけれども、やっぱりこの先10年でかなり自家用車を手放さなければいけなくなる方というのは多くなってきます。私の私案ですけれども、鉄道を利用された方が鉄道の駅からさらに駅周辺にお出かけになる。LRT(ライトレールトランジット)ですけれども、こういったものの整備というものも、次世代に向けて、そろそろ我々の世代の責任で考えていかなければいけないのかなと思っています。そうすることで駅前の周

辺をしっかりとにぎわいのある開発ができると私は思っております。以上でございます。

【小池コーディネーター】

ありがとうございました。駅に関するテーマの質問には、西和医療センターとも絡むんですけど、JR法隆寺駅に関する質問も私どものところに届いております。この質問は、安堵町在住の方からのものです。法隆寺駅周辺は、駅周辺の地域から駅までの道路が狭く、通勤通学が不便だと感じています。法隆寺駅と周辺地域を結ぶアクセスを整備すれば必ず活性化すると思いますが、将来ビジョンをお聞かせください。ではいかがでしょうか。まず、斑鳩町の中西町長、お答えいただけますでしょうか。

【中西斑鳩町長】

法隆寺駅までの道路といいますと、言われるように本当に狭い道路でございます。これにつきまして、やはり言われるように拡幅等整備することによって、町の活性化というのは進められるのではないかとこのように思っているところでございます。

先ほど知事の方からもお話ありましたように、奈良県とまちづくりに関します基本協定というのを結ばせていただいております。これは法隆寺駅周辺、またそれから法隆寺周辺につながるアクセス道路等ですね。まちづくりの一環となっているところでございますけども、これに合わせて、県とともに力を合わせながら、このまちづくりを進めていけたらというふうに思っているところでございます。それと、この地域へ、今回西和医療センターが来るということで、それと一緒に合わせて進められたというふうに思っているところでございます。

また、今、駅の周辺、駅の東側ですけども、三代川という川がございます。その川は今県の方で力添えをいただきまして、改修をしていただいているところでございます。この駅の周辺、特に駅の南側のところは、この三代川もある程度も暗渠化しているような状況でございます。そのような中で、できれば県の方にもお願いしながら、その両側の一部を暗渠にすることによって、道路の拡幅、また歩道等の整備ができるんじゃないかというようなことも思っておりますので、この関係につきましては、なかなか難しい問題もあるかと思っておりますけども、やはり駅前のロータリー広場の拡幅等も、先ほど話もありました。それに合わせて、一部そういう暗渠をしていただくことによって、駅前のロータリーも大きくとれる。また、そこまでのアクセスが十分にできるというようなこともございますので、その辺もできれば、県の方にもお願いしながらともに進めていけたらというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【小池コーディネーター】

どうもありがとうございます。この質問には安堵町からも回答お願いいたします。富井副町長よろしくお願いいたします。

【富井安堵町副町長】

はい。それでは法隆寺駅周辺のアクセスの向上についてでございますが、それについては、地域の利便性と活性化を図る上で、非常に重要な課題と認識をしております。特に、先ほども述べましたが、県道を承認なされますと、駅と周辺地域を結ぶアクセス道路が整備され、交通の円滑化が期待されると考えております。この道路は単なる通行のためのインフラにとどまらず、地域全体をつなぐ動脈として機能するものとも考えます。こうした取り組みは、交流地域周辺のみならず、地域全体の発展にも寄与する重要な1歩としまして、住民の皆様や関係機関と協力をしながら、具体化に向けて進めたいと考えております。以上でございます。

【小池コーディネーター】

どうもありがとうございます。まさに駅、道路は地域の顔、窓口といえる場所ですから、その整理は必ず地域の元気に繋がると思います。次はテーマ3「道路整備の加速化」への質問です。まず1つ目の質問です。奈良県の道路は狭く整備されてない印象が強いです。整備を推進するためのハードル、道路環境についての今後の取り組み方針を聞かせてくださいというものです。これは、山下知事からぜひお答えください。お願いいたします。

【山下知事】

はい。先ほどもご説明させていただきましたので、簡単にもう一度説明させていただきますと、やはり、まず問題は用地取得に時間がかかるということでございます。地権者の皆さんとの交渉に、かなりの時間を要しているということでございまして、今後とも誠意を尽くして地権者の皆様には、用地提供についてのご理解をいただくべく、お願いをしていくわけですが、どうしても、どうしてもお話がまとまらない場合には、土地収用制度の活用といったことも含めて、早期の用地取得を図って参りたいと考えております。

それからもう1つは、埋蔵文化財の調査、これも時間がかかっていますので、こちらの方は先ほど言った様々な工夫をしながら、速やかに進めていきたいと思っております。

あと国が直轄で工事を行っている道路が県には多数ございます。国道25号線、これ平井町長からお話ございました。それから国道163号線、小紫市長からもお話ございました。そして何といたっても、一番の奈良県の課題は京奈和自動車道が、まだ2ヶ所、未開通であるということでございます。これらの問題につきましましては、やはり国に対して強い働きかけをしていく必要があるというふうに思っておりまして、私の方がしばしば上京して、財務省や国土交通省等においてお願いに上がっている他、先般、京奈和自動車道建設促進協議会の決起大会も行いまして、こうした様々な手法で、道路の早期整備に尽力して参りたいと思います。

【小池コーディネーター】

はい。ありがとうございました。道路環境を改善する取り組みに関しては、それぞれの地域にも意見を聞きたいと思います。まずご質問の方ですが、歩道の整備がままならない道路も多

く、白線と溝との間隔がほぼない道路などは、危険も感じます。交通安全対策なども含む道路環境の改善の取り組みを聞かせてください。これ、大変恐縮ですが4つの町からのお答えをいただきたいんですが、すいません。ちょっと短く一言ぐらいでお願い申し上げます。まず平群町の西脇町長お願いいたします。大変申し訳ございませんが、はい。

【西脇平群町長】

それでは平群町の道路環境改善の取り組みについて報告させていただきます。まず主要幹線道路につきましては、交通量、また、通学路の指定状況など総合的に勘案して、重点整備路線と位置付け、改良工事の事業を進めております。また事業完了まで時間を要する場合は、短期的な安全対策として、区画線や転落防止柵を設置し、暫定的な対策を行っております。

この次に歩道のバリアフリー化につきましては、歩道と車道の段差の解消に努めており、歩道が整備されてない道路につきましては、車のドライバーが視覚的に認識できるよう、道路路側帯を緑に着色、グリーンベルト舗装しており、車両の速度抑制をさせ、通行帯を明確化して、歩行者との接触事故を防止することを目的として実施しております。以上です。はい。

【小池コーディネーター】

どうもすいません。ありがとうございました。続いて三郷町の木谷町長にも参考での取り組み、すいませんコンパクトに聞かせてください。お願い申し上げます。

【木谷三郷町長】

コンパクトに参ります。三郷町町道の管理延長は114キロほどありまして、そのうち16キロほどが幹線道路ということになっております。この幹線道路に関しましては、ここ10年ほどで、歩道の拡幅であつたりとかいうことで、歩きやすい道をということで計画的に進めて参りました。ただ、それ以外の道に関しましては、なかなか行き届かないところもございまして、ベビーカーや、車椅子であつたりといったご利用者の方があり、使いづらい安全体制が必要なところもまだまだございます。そういったところにこれからしっかり丁寧に対応し対処していくことで、誰もが安心に、楽しく歩ける道というのを作っていきたいと思います。以上です。

【小池コーディネーター】

どうも申し訳ありません。ありがとうございました。続きまして、広陵町の山村町長、広陵町での取り組みをお願い申し上げます。

【山村広陵町長】

狭い道路に歩道を確保するという非常に至難のわざでございます。しかし通学路を中心に、何とか用地の協力をいただいて、拡幅をすとか、あるいは水路が隣にありますと蓋掛けをして歩道として使う。また、高低差がある場合は、法面を活用するために擁壁を建てて路肩の幅

を広げる。いろいろ工夫をしているわけでございます。

また通学路の交通安全対策としては、合同点検を毎年実施して、いろいろな対策を提案していただくということでございます。

また、危険箇所のうち、路肩部分として一定の幅員が確保できる区間につきましては、白線から外側をグリーンベルトとして設置をしております。

広陵町の取り組みとして特徴的なのは、防災100年計画と名前をつけまして、集落内の道路に面する住宅等を改築されるときに、建築基準法に定めるセットバックに加えて、1メートルプラスしていただいてそれを町が取得をして整備をするということで、100年経てば道路が広がるのではないかとということで、防災100年計画と名前をつけているということでございます。以上でございます。

【小池コーディネーター】

どうもありがとうございました。そして河合町の森川町長にも河合での取り組みについてご紹介ください。お願いいたします。

【森川河合町長】

はい。どうもありがとうございます。河合町では、土地区画整備事業で整備された道路区域以外、旧村地域は、道路幅が狭く、大変、地域においては不便さを感じております。その中でも、私どもの地域においては多くの河川があることから、集落の主要な道路が河川沿いに配置されているなど、新たな歩道を確保するのが困難な状況でございます。そのような状況下において、歩行者空間の安全確保の問題解消にあたり、通学路の合同安全点検の機会を利用し、地元などに幅広くご意見を聴取するなどしております。現在での歩行者の安全対策への取り組みといたしましては、狭い道路での外側線や、ポストコーンの設置などを進めており、また、それと並行して、車両の運転者の視認性を高める対策もっており、ゼブラゾーンの確保や、街灯の設置などの対策を進めているのが現状であります。どうかよろしくお願いいたします。

【小池コーディネーター】

どうも皆さんありがとうございました。では会場の皆様からの質問への回答というのはこれで終わらせていただきます。

午後2時半から進めて参りました奈良県まちかどトーク、初の試みですがそろそろ閉めの時間が近づいてきました。締めくくりにあたりまして、主催者である奈良県の山下知事からまとめをよろしくお願いいたします。

【山下知事】

まず本日ご出席いただきました、市長様、そして町長様、本当にご出席ありがとうございます。また会場の方には、各市町の職員の皆様、そして議員の皆様、また県の関係する幹部職

員等も今日は参加をさせていただいております。今日のテーマは医療、それから道路、そして駅前広場の整備などのまちづくりといったことがテーマでございました。いずれのテーマにつきましても、県の役割、そして、市町の役割というのがございます。また、県と市町が連携してやるべき課題というのもございます。そうした様々な事業につきまして、効果的、効率的に、そして迅速に進める上では、なんと言っても、情報の共有というのが私は一番まず出発点になるんじゃないかと思います。そういう意味で、地域の行政に携わる方が、今日はたくさん、ここに集まっておりますので、今日の参加者で情報を共有して、そしてまた住民の皆さんからも様々な今日はご意見も聞かせていただきました。そうした住民の皆さんのご意見をもとに、まちづくり行政に携わる我々が情報共有して、それぞれの職責を果たすとともに連携をしていくと、これで地域のまちづくりが、非常にスピード感を持って、私は進んでいくんじゃないかというふうに思っております。

今回こういった企画を初めてさせていただいたんですけれども、この今日参加されてる西和地域、そして大和郡山市、生駒市、その市町の発展に、今日のまちかどトークがそのきっかけになればというふうに、出発点になればというふうに思っております。本当に参加された皆様には、改めましてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

【小池コーディネーター】

山下知事ありがとうございました。これは私の個人的な思いなんですけど、40年以上にわたって、私、奈良県内を取材させていただいてるんで、昔と比べ医療体制、駅、道路の環境で良くなった部分も多いと感じます。ただやはり他府県と比べれば、まだまだの部分も多くて、県民の暮らしの向上にはまだまだの努力が必要かなと思います。人口減少や自治体の財政増加が厳しい中、こうした課題を解決するには、限られた資源や人材をどう有効に活用するか、県や市町村の工夫や連携がますます必要になると思っております。知事もお話されてましたが、この催しがこうした課題解決を前に進めるきっかけになればと思っております。ではこのあたりで奈良県まちかどトークお開きとさせていただきます。進行は司会の方にお任せいたします。

【司会】

はい。ありがとうございました。最後に、熱心な議論をしていただいた登壇者の皆様、そしてコーディネーターの小池さんに、皆様、改めて拍手をお願いいたします。これをもちまして、令和6年度奈良県まちかどトークを終了いたします。なお、アンケート用紙につきましては、回収箱に入れていただくか係の者にお渡しください。奈良スーパーアプリからも回答できますので、ご協力お願いします。また、2階出口からご退席いただけます。足元に注意してお帰りください。本日はありがとうございました。